

第3分科会①

つながる“わ”保護者会・父母会の役割と活動

世話人 小保方則充（神奈川・保護者）

林亜紀子（北海道・連協職員）

○保護者会・父母会の必要性・役割、課題

学童保育は、働く保護者の「子育てと労働の両立」の必要から生まれ、子どもの放課後生活の改善への要求を保護者会・父母会で束ねて行政に届け続けることで発展してきました。保護者会・父母会には当事者の声を発信していく役割が期待されています。

しかし、大規模化や運営主体の変化、保護者会・父母会に関心がない、などを要因として保護者会・父母会の活動にさまざまな課題や困難が生まれています。

○コロナ禍下の保護者会・父母会

2020年3月以降、「新型コロナウイルス感染症」の拡大は止まらず、非正規雇用を中心に失業が増大し、入院できないまま亡くなる方が相次ぐほど医療はひっ迫しています。社会全体が互いを監視しあう雰囲気が蔓延し、そういった社会で働きながら子育てをする保護者たちは大きなストレスを受けています。

コロナ禍において、あらゆる「集まりごと」が控えられました。指導員と保護者、保護者同士のつながりがさらに希薄になっていくことが危惧されます。

○保護者会・父母会の大切さ―「放課後児童クラブ運営指針」からわかること

2015年に厚生労働省が策定した「放課後クラブ運営指針」（以下、「運営指針」）の第3章4の(3)「保護者及び保護者組織との連携」には、「保護者との協力関係を」「保護者が互いに協力して」と書かれています。繰り返される「協力」の二文字に、「運営指針」が「協働の子育て」を大切にしていることを感じます。

活動をともして、互いの困難に心を寄せあいながら学童保育のこと、子育てのことを語りあい、みんなで育てあうことの楽しさ・安心感に励まされ、またそれぞれの生活に向きあう糧を得られる……そんな保護者会・父母会が、このコロナ禍下にこそ求められています。

○この分科会でめざしたいこと

保護者会・父母会活動に参加したいと思っても、さまざまな事情で参加できない保護者もいます。他方では役割を背負い負担感を募らせ、保護者会・父母会活動に苦痛を感じてしまう保護者もいます。「できるときに、できる人が、できることを」という考えを基本に据え、保護者一人ひとりが自由に、気楽にもの言える保護者会・父母会でありたいものです。

分科会にお集まりいただいたみなさんと、一人ひとりの参加者の抱える事例や課題を共有しながら、保護者会・父母会について存分に語りあい、保護者会・父母会の役割や活動の意義を確かめ合いたいと思います。